

平成 21 年度 第5回心理学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

日時：平成 21 年 12 月 19 日(土) 13:30～15:35

場所：(社)私立大学情報教育協会 事務局会議室

出席者：木村裕委員長、今井芳昭副委員長、今井久登委員、中澤清委員、
金子尚弘委員 井端事務局長、森下、恩田

I 報告事項

- ・ 前回までに作成した「心理学の学士力」を実現するために、心理学に固有の情報活用力を同定し、その到達目標(知識理解・活用(含む情報倫理)、技能)、到達度(到達目標ごとの具体的な達成水準)、教育内容・方法(到達目標ごとの教育内容とその教育方法)、到達度確認の測定手段(客観性、標準性に配慮した測定手段)を次回までにまとめる(今年度の作業)。
- ・ 2010 年度以降は、情報教育研究会の下に情報非専門分野別教育分科会を置き、さらにその下に今までの学系別 FD/IT 活用研究委員会を置くという組織にする。心理学からは、金子尚弘委員が情報非専門分野別教育分科会の委員として就任する予定である。

II 検討事項

1. 心理学における情報教育

- ・ 検討を始める前に、他の分野の情報教育の資料が参考資料として配布された。
- ・ 他の学問領域と異なる心理学固有の情報活用能力は想定しにくいのではないかという意見が出され、「情報リテラシーだけでもよい」、「固有のものが考えにくければ共通のものでもよい」ということで検討を進めることにした。
- ・ 学士力は「理解できる」ことを明記したものであり、それを実現するための情報教育は、学生に情報活用能力を習得させ、情報機器あるいは情報環境を「使えるようにする」ものと捉えることができる。
- ・ 統計ソフトが「使える」ようになる側面とある種のソフトを使って「統計を理解する」という側面がある。後者は教育方法に当たると考えられる。
- ・ その後、委員 2 名からそれぞれの宿題(到達目標、情報活用力、教育内容・方法など)が紹介された。
- ・ 委員長の発案により、心理学の学士力に対応させて、情報教育の到達目標を考えていくことにした。

・ まずは、「学士力2:人間の心や行動に関わる現象の要因を科学的な方法を用いて明らかにできる」に対応させて考えていくことにした。議論に基づいて、以下のようにまとめられた。

到達目標1: 実験・調査・観察に情報通信技術を活用することができる。

到達度

- ①インターネットを利用して、アンケート調査、心理検査を実施することができる。
- ②科学的に行動を観察し、数量化することができる。
- ③統計ソフトを用いて、解析・評価することができる。
- ④コンピューターを用いて、心理学実験の制御ができる。

・ そして、上記の到達目標1と異なる観点から心理学の特徴を出すために、以下の到達目標2を作成した。

到達目標2: 情報通信技術を用いて、人間の心や行動を理解し、社会の諸現象の場面に応用することができる。

到達度

- ①ウェブサイトやブログなどから、様々な人間の異質性や多様性の存在を認識できる。
- ②ウェブサイトやブログなどから、社会現象を理解する。

・ 次回は、上記の到達目標と到達度を検討し直し、その教育内容・方法、測定方法をまとめることになった。

次回の委員会: 2010年2月15日(月) 11:00-13:00

次回までの宿題: 上記の心理学における情報活用力を補足した上で、その教育内容・方法、測定方法を考える。

以上